# 安倍首相の国会演説はどう変化したか?

## ～安倍内閣(1次、2次)、野田内閣の比較検討～

橋　本　武

（一般財団法人日本開発構想研究所 研究主幹）

現在の安倍総理は、同一人物が時を隔てて再度総理大臣になるという、戦後では極めて珍しい総理大臣である。また、内閣発足から 3 か月近くなるが、いぜんとして高い支持率を維持している、むしろ支持率が上昇しているという点でも、近年では珍しい内閣である。これは自身の第 1 次内閣でも見られなかった現象である。

第 2 次安倍内閣(2012 年 12 月～)は、野田内閣とも、また第 1 次安倍内閣(2006 年 9 月～2007 年 9 月)ともおそらく何かが大きく異なっているのだろう。その違いとは何か。その解明は筆者の手に余るが、とりあえず簡便にできるものとして、国会演説(施政方針演説と所信表明演説)を対象にして両者の変化を調べてみた。そこから何かヒントが得られるかも知れない。

対象とした演説は表 1 のとおりであるが、内閣によって演説回数が異なる点には注意が必要である。本稿では回数増加の影響は検討しないが、①各演説の特徴が相殺されて全体として無個性化する、②総理の特徴が累積され全体として個性化する、の両面の可能性が考えられる。

分析には、樋口耕一氏(立命館大学)の開発した内容分析（計量テキスト分析）もしくはテキストマイニングのためのフリーソフトウェア KH Coder(http://khc.sourceforge.net/)を使用した。

なお、最初にお断りしておくが、本稿は、安倍 1 次、安倍 2 次、野田の演説の比較検討を行ったものであるが、演説の良否を比較する意図はまったくない。あくまでも演説の形式的な特徴を比較したものである。また、本稿のような簡便な方法では分析結果の確実性・厳密性にもかなりの問題があるだろう。そういった様々な留意・限界の下での内容であることをご理解願いたい。文中煩雑になるので、敬称は省略した。

表 1　分析対象の演説

| 内閣 | 演説年月日(種類) | |
|---|---|---|
| 安倍 1 次 | 2006 年 9 月 29 日(所信表明演説)<br>2007 年 9 月 10 日(所信表明演説) | 207 年 1 月 26 日(施政方針演説) |
| 安倍 2 次 | 2013 年 1 月 28 日(所信表明演説) | 2013 年 2 月 28 日(施政方針演説) |
| 野田 | 2011 年 9 月 13 日(所信表明演説)<br>2012 年 1 月 24 日(施政方針演説) | 2011 年 10 月 28 日(所信表明演説)<br>2012 年 10 月 29 日(所信表明演説) |

## 名詞の出現状況

最初に名詞(KH Coder にいう名詞とサ変名詞)の出現状況を見る。

まず、野田と安倍 2 次を比較すると、次の 2 点を指摘できる。

第 1 は、「改革」から「成長」への変化である。

「改革」の順位は、安倍 1 次、野田、安倍 2 次の順に、1→4→17 と低下した。特に安倍 2 次での低下が目立つ。これに代わって上昇したのが「成長」である。安倍 1 次では 14 位、野田では圏外(40 位)であったものが、安倍 2 次では 5 位と急上昇した。

第 2 は、「被災・復興」から「外交・危機」への変化である。

「被災」「復興」はそれぞれ野田の 5 位、6 位であったが、安倍 2 次では圏外(35 位)、15 位と大きく後退し、「外交」「危機」が野田の圏外(68 位)、圏外(35 位)から 7 位、8 位と急上昇した。

次に、安倍 1 次と安倍 2 次を比較すると、次の 2 点を指摘できる。

第 1 は、「世界」の強調と「教育」の後退である。

「世界」は安倍 1 次では 9 位であったが、安倍 2 次では 1 位である。加えて使用率は 21.6‰と極めて大きい。反対に「教育」は 6 位から 18 位と大きく後退した。各種報道が指摘するように教育の重要性が低下したというよりは、教育問題への発言を控えているのであろう。

第 2 に、「国民」から「皆さん」への変化である。「国民」は 3 位から 9 位に後退した。一方、「皆さん」は、安倍 1 次では全く使用しなかったが、安倍 2 次では 7 位である。ちなみに、野田では 111 位である。「皆さん」は「国民」と同じではないが、安倍 2 次で「皆さん」を多用するようになったということは、演説が聴衆への呼びかけを意識するものになったということである。「今一度、申し上げます。皆さん、今こそ、世界一を目指していこうではありませんか。」(2013 年 2 月 28 日、施政方針演説)というフレーズは、安倍 2 次の演説の特徴を端的に表している。

表 2　総理演説における名詞の出現状況

| 順位 | 安倍(第 1 次) | | | 安倍(第 2 次) | | | 野田 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 単語 | 回数 | 率（‰） | 単語 | 回数 | 率（‰） | 単語 | 回数 | 率（‰） |
| 1 | 改革 | 51 | 15.1 | 世界 | 42 | 21.6 | 経済 | 80 | 15.5 |
| 2 | 地方 | 46 | 13.6 | 経済 | 30 | 15.4 | 社会 | 79 | 15.3 |
| 3 | 国民 | 45 | 13.3 | 社会 | 28 | 14.4 | 国民 | 74 | 14.4 |
| 4 | 社会 | 45 | 13.3 | 我が国 | 24 | 12.3 | 改革 | 65 | 12.6 |
| 5 | 地域 | 36 | 10.7 | 成長 | 24 | 12.3 | 被災 | 61 | 11.8 |
| 6 | 教育 | 35 | 10.4 | 皆さん | 18 | 9.2 | 復興 | 57 | 11.1 |
| 7 | 我が国 | 34 | 10.1 | 外交 | 18 | 9.2 | 政治 | 55 | 10.7 |
| 8 | 支援 | 32 | 9.5 | 危機 | 18 | 9.2 | 再生 | 55 | 10.7 |
| 9 | 世界 | 31 | 9.2 | 国民 | 17 | 8.7 | 地域 | 54 | 10.5 |
| 10 | 経済 | 30 | 8.9 | 保障 | 17 | 8.7 | 保障 | 46 | 8.9 |
| 11 | 実現 | 27 | 8.0 | 地域 | 16 | 8.2 | 責任 | 45 | 8.7 |

| 順位 | 安倍(第１次) | | | 安倍(第２次) | | | 野田 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 単語 | 回数 | 率（‰） | 単語 | 回数 | 率（‰） | 単語 | 回数 | 率（‰） |
| 12 | 強化 | 26 | 7.7 | 再生 | 16 | 8.2 | 課題 | 44 | 8.5 |
| 13 | 制度 | 25 | 7.4 | 国際 | 15 | 7.7 | 国会 | 43 | 8.4 |
| 14 | 成長 | 25 | 7.4 | 関係 | 15 | 7.7 | 大震災 | 41 | 8.0 |
| 15 | 戦略 | 23 | 6.8 | 政策 | 14 | 7.2 | 関係 | 41 | 8.0 |
| 16 | 国際 | 22 | 6.5 | 復興 | 14 | 7.2 | 世界 | 40 | 7.8 |
| 17 | 子ども | 22 | 6.5 | 改革 | 13 | 6.7 | 我が国 | 39 | 7.6 |
| 18 | 保障 | 21 | 6.2 | 教育 | 12 | 6.2 | 行政 | 37 | 7.2 |
| 19 | 基本 | 20 | 5.9 | 課題 | 11 | 5.6 | エネルギー | 33 | 6.4 |
| 20 | 政治 | 20 | 5.9 | 制度 | 11 | 5.6 | 国家 | 33 | 6.4 |
| 合計 | 1005 | 3379 | 1000.0 | 762 | 1948 | 1000.0 | 1224 | 5149 | 1000.0 |

注１：率は全名詞の総出現回数に対する割合(千分率)。注２：単語の合計欄は出現した単語の種類数。
注３：21 位以下で 20 位と同回数の単語は省略。

ここで、安倍１次、安倍２次、野田という３期の演説でともにベスト 10 に入っている「経済」の用法上の特徴を見てみる。このため、階層的クラスター分析を使って出現パターンが近い単語を調べたものが表３である。野田が経済を再生させるものとして認識していたのに対して、安倍は１次の時点から経済を成長させるものと認識していたことが窺える。また、野田が経済と産業を近親的に認識していたのに対して、安倍は野田ほどの近親性を認めていないようにも見える。

**表３　「経済」の出現パターンに近い単語**

| 内閣 | 最も近い | 次に近い | 次の次に近い |
|---|---|---|---|
| 安倍（第１次） | 成長 | 状況、維持 | 活用、イノベーション、技術 |
| 安倍（第２次） | 成長 | 世界、センター | 意思、競争、皆さん、気概 |
| 野田 | 再生 | 産業、成長 | 国家、実現、加速、確保、投資 |

## 動詞の出現状況

次に動詞の出現状況を見る。

動詞には名詞ほど顕著な変化は見られないが、安倍２次の特徴的な動詞は１位の「創る」であろう。「創る」は、野田では全く使用されていないが、安倍１次でも９位に入っており、そもそも安倍に特徴的な動詞のようであるが、安倍２次では１位となり、使用率も２倍近くに増加している。反対に安倍１次では１位であった「取り組む」が２次では７位に後退し、使用率も 1/4 程度に減少した。動詞における安倍の１次から２次への変化は「取り組む」から「創る」への変化であったと言えよう。

「創る」の典型的な用法は、「「世界一安心な国」、「世界一安全な国、日本」を創りあげます。」(2013 年２月 28 日、施政方針演説)である。「取り組む」がいかにも官僚的、慣用句

的な表現であるのに対して、「創る」は「取り組む」よりもはるかに総理の意思の強さや能動性を感じさせる。

表 4　総理演説における動詞の出現状況

| 順位 | 安倍(第 1 次) | | | 安倍(第 2 次) | | | 野田 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 単語 | 回数 | 率（‰） | 単語 | 回数 | 率（‰） | 単語 | 回数 | 率（‰） |
| 1 | 取り組む | 46 | 63.2 | 創る | 18 | 33.3 | 進める | 42 | 32.8 |
| 2 | 向ける | 36 | 49.5 | 進める | 16 | 29.6 | 果たす | 35 | 27.3 |
| 3 | 行う | 35 | 48.1 | 持つ | 15 | 27.7 | 向ける | 32 | 25.0 |
| 4 | 進める | 33 | 45.3 | 向ける | 13 | 24.0 | 図る | 29 | 22.7 |
| 5 | 目指す | 25 | 34.3 | 目指す | 11 | 20.3 | 取り組む | 26 | 20.3 |
| 6 | 持つ | 18 | 24.7 | 守る | 9 | 16.6 | 支える | 24 | 18.8 |
| 7 | 考える | 16 | 22.0 | 取り組む | 8 | 14.8 | 生きる | 22 | 17.2 |
| 8 | 図る | 13 | 17.9 | 上げる | 8 | 14.8 | 行う | 18 | 14.1 |
| 9 | 創る | 11 | 15.1 | 考える | 7 | 12.9 | 持つ | 18 | 14.1 |
| 10 | 働く | 11 | 15.1 | 始める | 7 | 12.9 | 取り戻す | 18 | 14.1 |
| 合計 | 221 | 728 | 1000.0 | 267 | 541 | 1000.0 | 398 | 1280 | 1000.0 |

注 1：率は全動詞の総出現回数に対する割合(千分率)。注 2：単語の合計欄は出現した単語の種類数。
注 3：11 位以下で 10 位と同回数の単語は省略。

## 演説の構造

以上、名詞、動詞の用法という単語レベルでの検討を行ったが、演説の構造全体ではどのような変化が見られるのだろうか。

このため、多次元尺度構成法を用いて単語間の関係を検討する。多次元尺度構成法は、分類対象物の関係を低次元空間における点の布置で表現する手法であり、似たものは近くに、異なったものは遠くに配置される(Wikipedia)。したがって、原点近くに布置される単語は、演説の中心になる単語であると理解できる。図 1 から図 3 は、名詞だけ(名詞＋サ変名詞)を対象に、布置される単語数がいずれも概ね 100 になるように出現数の多い単語から選択している。また、円の大きさは出現数の大きさを表し、関係が近いものは同色で表示し、全体が 7 クラスターになるように色分けしている。

安倍 2 次の特徴は、布置の範囲が広く、中心部と周辺部が明瞭に分離されていること、加えて、中心部が単一のクラスターで構成されていることである。演説の中核が明瞭で、純化されていると言っていいだろう。中心部は、成長、国際、社会、世界、危機、外交などで構成され、その周辺を震災復興、拉致、仕事・子育て、研究・開発などが取り囲んでいる。

これに比して、安倍 1 次は、布置の範囲が狭く、中心・周辺構造がややあいまいで、特に中心部の純化という点では 2 次と大きく異なる。安倍 1 次の中心部は、経済戦略的な国際性の強いクラスターと、諸制度の改革的な国内的なクラスターという性格の異なる 2 つ

から構成されている。安倍 2 次は、安倍 1 次のうち諸制度の改革のウェイトを下げ、経済戦略に特化することで、演説の構造をメリハリのあるものとしたと言えよう。

さらに、野田を見ると、布置の範囲が最も狭く、中心・周辺構造は一層あいまいになる。中心部は経済再生であるが、周辺部に布置された国会・行政改革と震災復興も経済再生と比肩し得る大きさを持つ。野田の演説は、経済再生、国会・行政改革、震災復興の多極構造であったと言えよう。これに対して、安倍 1 次は 2 極構造、安倍 2 次は 1 極構造と言える。

もちろん、総理演説の構造は、総理が自由に選択できるわけではなく、重要な政策課題群として何が、いくつ存在しているのかに規定される。野田演説の多極構造は野田の意識的な選択結果というよりも、当時の重要政策課題群の構造を基本的には反映した結果なのかも知れない。

そうした留意をした上で、野田演説と安倍演説(2 次)の違いを強調して言えば、野田演説は政策課題全般によく目配りされているが、その分焦点が分かりにくい。安倍演説(2 次)は焦点が絞り込まれて分かりやすいが、政策課題群の単純化があるかも知れない。あえて言えば、野田演説は行政的、安倍演説(2 次)は政治的と色分けできそうである。

単純すぎる 2 分法ではあるが、この行政的・政治的という区分を援用すると、先の動詞に見た「取り組み」から「創る」への変化も行政的動詞から政治的動詞への変化と見ることもできよう。安倍総理の国会演説は、単語の選択、演説の構造の両面において、それまでの経験を生かし、政治的にかなり練られたものに変化したように思われる。

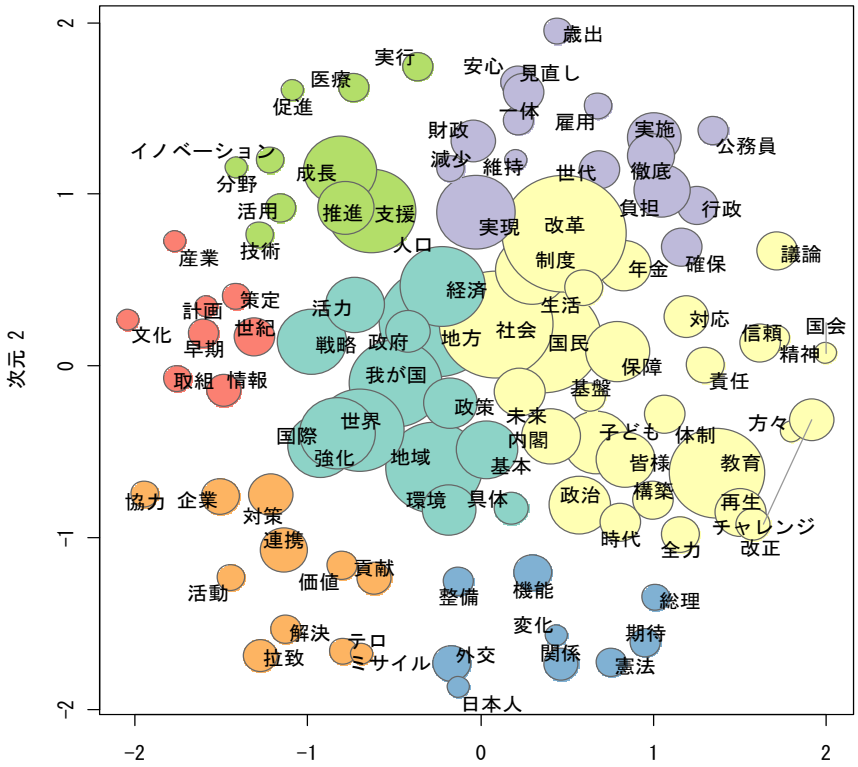


図 1　安倍 1 次の多次元尺度構成法による分析結果

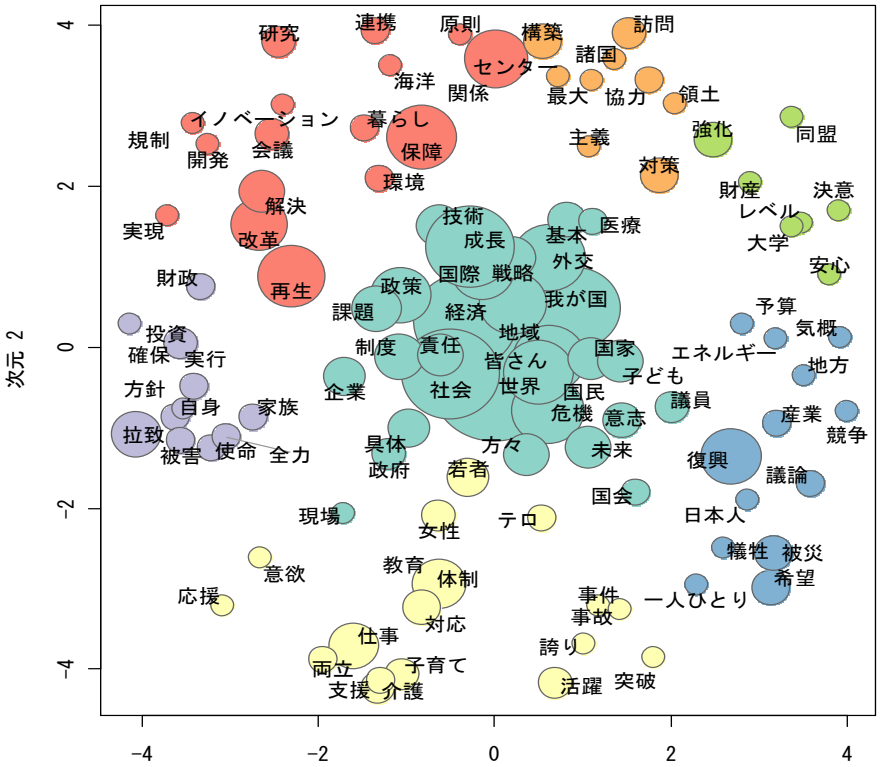


図 2　安倍 2 次の多次元尺度構成法による分析結果

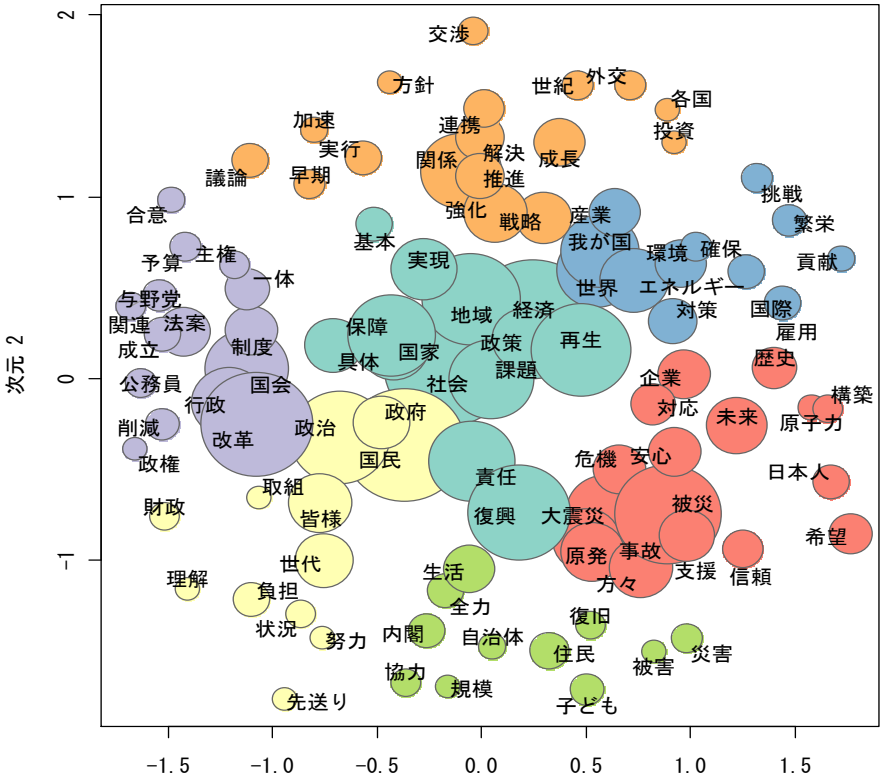


図 3　野田の多次元尺度構成法による分析結果